

令和 5 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼崎市立尼崎双星高等学校

令和5年度 学校評価

【各校の重点取組について】

- 1 教育・学習内容や補習、ICT機器活用の取組を充実させ、学力を着実に向上させながら、より高い志をもって志望職種、志望大学受験に臨み、合格することを多面的に支援する。
- 2 望ましい生活習慣を確立させ、生涯にわたって夢と志を持ち続け、自己実現を図りながら社会に貢献していこうとする態度を養う。
- 3 自己や他者の命の尊厳を守る意識・態度を涵養し、人間関係能力を向上させるとともに、防災教育・安全教育を強化し危機管理能力の向上を図る。
- 4 オープンハイスクール、学校行事、ホームページ、さらには学校評議員会や学校評価を通して学校教育活動や運営状況の広報・発信に努め、保護者や地域社会との連携を深めることによって、開かれた学校づくりを推進する。

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに、客観的なデータを踏まえた確かな学力の保証及び縦のつながりを重視した校種間の連携に努める (2) 障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となる特別支援教育の取組を充実させる (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、健全な心と身体を培い、豊かな人間性の育成を図る (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る (5) 積極的にICTを活用し、情報活用能力の育成を図る		3.8	3.9
取組	成果	課題と改善策	
長期休業日や放課後に補習を実施し、学力向上に日々努力している。(教務部)	補習を希望する生徒が一定数見られた。	生徒の多様なニーズに対応するためには人員、場所の確保、時間調整がさらに必要となる。	
非認知能力と三観点別評価に関する職員研修を実施し、職員の理解を深めることによって、生徒の能力を高める授業の実践を目指す。(教務部)	研修は未実施であったが、成績処理作業の説明を通じて意識を高めることはできた。	年間を通じて共通の尺度で評価をすることが教科や単元の特性によっては難しいことがあるので、柔軟な対応が必要になる。	
「ほけんだより」の発行により、健康的な日常生活が送れるように情報発信等を行っている。(保健部)	保健だよりの定期的な発行ができた。	より時事的な内容となるように、内容を検討していきたい。	
1年生全員に図書館見学を実施し、充実した図書館に興味を持たせるとともに、スタンプカードに取り組ませ、読書習慣を育成する。「図書館だより」を定期的に発行し、新着図書・推薦本を紹介していくとともに、生徒が興味をもつ企画を実施し、図書館利用者、貸出者・貸出冊数の増加を図る。(図書部)	新生生の図書館見学では、図書館に興味をもった多くの生徒が本を借りた。その後、スタンプカード・「図書館だより」の発行・図書委員会企画(怖い話の会2回)を取り組んだが、貸出者数・貸出冊数は例年並みであった。	生徒が興味をもち、読書習慣の育成のつながるような企画を実施していく。	
全校生徒に読書感想文を募集し、積極的に提出された作品の中から、優秀な作品(学校代表)を選出し、「青少年読書感想文コンクール兵庫県阪神高校支部」に応募する。その他の公募、読書感想画コンクールにも、希望者を応募させる。(図書部)	提出された読書感想文は、多くはなかったが、優秀な作品2名を学校代表として、応募して、1名が佳作として入選した。読書感想画コンクールに、阪神高校支部の代表として、3名を応募した。	読書感想文コンクール、読書感想画コンクールに、積極的に応募する。	
3学期に実施する「マラソン大会」に向けて年明けから体育の授業で持久走に取り組む。(保健体育科)	生徒一人ひとりが自分に合った目標設定を行い、目標に向けて努力させることを目指す。マラソン大会でその成果を発揮することにより、達成感や体力の向上を実感させる。	日常生活で運動する機会の少ない生徒が増えており、体力の低下が著しい。生徒の体調と体力を考慮し、活動状況を確認しながら、徐々に運動量を上げていく必要がある。	
音楽類型の授業ではできるだけ自ら考え、実践する授業を心がけている。芸術選択では、各自が積極的に課題に取り組めるような授業を心がけている。(芸術科)	自ら考え、演奏の表現力向上が見られた。	技術的に個人差があるので技術向上に個人差があり、それをできるだけなくなるような効率的な指導が必要である。	

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身ともに健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、多様性を受容し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もが安全・安心して過ごすことができる学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力の育成を図る (5) 不登校にならないようにするための学校づくりを進めるとともに、不登校児童生徒の学習環境の確保や家庭への支援に努める		3.9	4
取組	成果	課題と改善策	
職業との関連が深く、実質的な教育を行う専門学科においては、変化に対応するため、生涯にわたって自ら学び続ける学力や、それぞれの職業分野での基盤を確実に身につけさせることが求められることから、資格取得を通して自信と誇りを高め、意欲ある学習態度の伸長と主体的な進路選択ができる態度・能力の育成に努めている。(ものづくり機械科)	例年10種目程度の資格試験を行っているが、本年度はコロナの影響でガス溶接技能講習、アーク溶接特別教育、低圧電気講習を開催できなかった。	コロナの影響がなくなると開催できないと考える。	
阪神間の企業の協力を得て、インターンシップを行い、自分の将来をじっくりと考える意識を高めさせている。(ものづくり機械科)	今年度2学年でインターンシップを実施した。3学年就職希望者の面接指導2ヶ月間で、社会人になるにあたって何が必要なのかを考えさせる指導期間になった。	課題を達成したため課題無し。	
職業との関連が深く、実質的な教育を行う専門学科においては、変化に対応するため、生涯にわたって自ら学び続ける学力や、それぞれの職業分野での基盤を確実に身につけさせることが求められることから、資格取得を通して自信と誇りを高め、意欲ある学習態度の伸長と主体的な進路選択ができる態度・能力の育成に努める。(電気情報科)	無線設備の操作・維持運用に関わる国家資格第二級陸上・第二級海上・航空特殊無線技士の指導を行い、多くの合格者を輩出した。	第二種電気工事士学科試験・技能試験や電気通信設備工事担任者第二級デジタル通信・第二級アナログ通信等の国家試験に挑戦できるように、教職員の確保、授業内容の精選、施設設備の充実等を行う。	
国家資格を取得することにより、ジュニアマイスター顕彰制度表彰対象者を50%以上、うちゴールド表彰対象者を10名以上を目指す。工業技術顕彰制度表彰対象者を70%以上、うち金賞10名以上を目標とする。国家資格第一・二種電気工事士・電気通信設備工事担任者第二級デジタル通信、第二級アナログ通信、第二級陸上・海上特殊無線技士・航空特殊無線技士について重点的に取り組む。加えてコンピュータネットワーク等の電気通信関係の実習を充実させていることを生かし、情報通信エンジニア資格を取得する。(電気情報科)	今年度の結果 ジュニアマイスター表彰対象者:33.3% ゴールド対象者:3名 シルバー対象者:3名 ブロンズ対象者:4名 工業技術顕彰対象者:56.7% 金賞対象者:3名 銀賞対象者:3名 顕彰対象者:11名 「情報通信エンジニア」優良団体表彰:9年連続 今年度は団体賞(学校の部)で全国1位	各分野の仕事内容を通して、それに伴う必要な資格を説明し、学習意欲の向上を図っていく。	
インターンシップの実施や卒業生の話を聞く機会を設け、将来についての意識を高めさせる。(電気情報科)	広い視野の育成と実際の電気技術を知る機会として、外部講師による授業を行い、生徒の多様なニーズに対応した。 ①センサ技術を用いたガス警報器等の技術開発を行っている技術者 ②衛星用品製造機の設計開発を行っている技術者	多様な業種の講話を聞く機会を設けることが課題である。	
アカデミックインターンシップに参加し、学ぶことの楽しさや学習意欲の向上を図る。(電気情報科)	9月にアカデミックインターンシップを実施し、大学での学習内容を知ることによって学習意欲向上につなげることができた。	課題を達成したため、課題は無し。	
職業との関連が深く、実質的な教育を行う専門学科においては、変化に対応するため、生涯にわたって自ら学び続ける学力や、それぞれの職業分野での基盤を確実に身につけさせることが求められることから、資格取得を通して自信と誇りを高め、意欲ある学習態度の伸長と主体的な進路選択ができる態度・能力の育成に努めている。(商業学科)	商業学科においては、各科目を通して、検定の受検・合格への意欲を高め、積極的に取り組むことができた。その結果、11期生では全商検定9種目のうち1級9科目合格1名と優秀な結果を収めている。1・2年生も自分の進路実現のために必要な資格取得を意識し、努力している。	商業学科3年生は、資格取得や進路選択に対して生徒間の意識に温度差を感じることもある。商業の生徒が4クラスに分散していることで全体を統一しての意欲の向上やモチベーションアップができないように思う。1・2年生は単独のクラスになったことで授業や資格取得等への取り組みがクラスとしてモチベーションを上げることが出来ているように思う。	
高大連携授業を行い、学問の面白さにふれ、学ぶことの楽しさを感じさせ、学習意欲の向上を図っている。(商業学科)	今年度は兵庫県商業教育協会主催の高大連携授業への参加のみの実施となった。参加生徒は大学進学のための学び、自らを成長させることができる環境に触れ、意欲向上につながった。	高大連携授業として実際に大学へ足を運ぶ機会や大学から講師を招き、大学での学びに触れる機会をもっと増やすことで、生徒の進路選択に生かせるようにすることが課題である。大学側が実施している出張講義等を活用したり、近隣大学と連携し高大連携授業を実施することを検討したい。	
阪神間の企業の協力を得て、インターンシップを行い、自分の将来をじっくりと考える意識を高めさせている。(商業学科)	今年度は企業に3日間インターンシップを実施した。社会人として必要となるマナーや基本的な知識、学校での商業の学びから実社会へのつながりを強く意識できたようである。	状況に応じて、柔軟に予定を変更するなどして、できる限り多くの機会を設けるように考えたい。	
外部講師による講話を通じて、社会的自立に向けた態度・能力の育成に努める。(商業学科)	商業学科においては、尼崎市内の企業や尼崎税務署などから講師を派遣していただき、商業の学びを深めると共に、商業の学びが実社会でどのように活かされるかを知ることができた。	状況に応じて、柔軟に予定を変更するなどして、できる限り多くの機会を設けるように考えたい。	
文化的教養を高め、豊かな情操と想像力を育成する「芸術鑑賞会」を実施する。(総務部)	12月に1年生を対象に大阪四季劇場において、ミュージカル「バケモノの子」を鑑賞した。	来年度も継続していく予定であるが、鑑賞料金が上がっていることもあり、継続が妥当かを考える必要がある。	
遅刻者に対する毎朝の別室指導や遅刻多数生徒の生活改善を促すため、「早朝登校指導」を行っている。(生徒指導部)	遅刻回数に応じて指導を行い、一定の成果をあげることができた。	呼び出しに応じない、早朝登校に応じない生徒への対応・指導について改善していきたい。	
全校集会や外部より招請した講師による講話、及び全校生徒の意識を高めるための呼びかけプリントの配布などを通して、常に生徒の心への働きかけを行い、道徳性の育成に努める。(生徒指導部)	自転車指導やスマホの使い方について外部講師を招いて講話を頂き、一定の成果を上げることができた。	引き続き外部の講師を招き、必要な講演や講話を計画する。	

<p>いじめアンケートを年3回行い、早期発見に努めている。いじめ対応チーム会議を定期的、かつ臨時に行い情報の共有を図り、対応を協議している。(生徒指導部)</p>	<p>いじめに関するアンケートから早期発見・早期対応できた事案もあり一定の成果を上げることができた。また、定期的な情報交換や共有、臨時会議での対応等を行い迅速に対応することができた。</p>	<p>いじめ対応は、早期発見と初動が大事になってくるので、引き続き情報交換や共有に努めていきたい。</p>
<p>生徒の自主的な進路選択を適切にサポートするとともに生徒それぞれの能力を伸長させ、将来の生活に活かせるよう指導している。(進路指導部)</p>	<p>自主的に進路について考える習慣がついてきている。</p>	<p>今後も生徒のニーズにあったものを考え実施する。</p>
<p>各自の進路希望に合わせたガイダンス(説明会)や個人面談を実施し、進路に関する意識を高めさせている。(進路指導部)</p>	<p>各学年、時期を考え適切に行った。</p>	<p>進路ガイダンスや面談の時期を考え適切に実施する。</p>
<p>外部講師の招聘や校外での研修会への参加を通じて、就職及び進学への意欲向上を図っている。(進路指導部)</p>	<p>年間計画を立て計画的に実施した。</p>	<p>今後も生徒のニーズにあったものを考え実施する。</p>
<p>「全国模試」を定期的実施、学習到達度を確認させるとともに進学希望者にきめ細かい指導を行っている。(進路指導部)</p>	<p>年間計画を立て計画的に実施した。</p>	<p>模試の事後指導をより丁寧に行いたい。</p>
<p>生徒の基礎的な人権教育の理解に促進するため、本校の人権教育方針に基づいて、人権教育読書・人権教育講座等を実施し、人権教育通信を発行する。(人権教育部)</p>	<p>本校の人権教育方針に基づいて、人権教育講座等を実施し、概ね良好だった。人権教育通信は、人権について、いじめを防止する心構え、奨学金などについて、発行した。</p>	<p>人権教育は永遠課題が多いため、時間が必要だが、これからも色々な意見や校内の状況を考慮しながら、慎重に進めていきたい。</p>

3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 学校と地域との連携・協働を推進し、地域とともにある学校づくりに努める		4	4
取組	成果	課題と改善策	
夏季休業中(特に7月下旬)に「三者面談」を実施、学習、進路、日常生活の情報交換を密に行い、3年間を通じて保護者との連携を深めている。(第1、2、3学年)	全クラス「三者面談」を実施し、保護者との連携を深めることができた。(第1学年) 夏季休業中に「三者面談」を実施、学習、進路、日常生活の情報交換を密に行い、保護者との連携を深めることができた。(第2学年) 夏季休業中に三者面談を行い、保護者と情報交換と進路決定に向けて有意義なものとなった。(第3学年)	学習状況の面などで、1回の面談だけでは連携が不足する生徒も増えており、夏季休業中以外でも柔軟な対応が必要である。(第1学年) 保護者の都合が合わない場合もあるので、夏季休業中以外にも希望者の面談期間を設けることを検討する。(第2学年) 夏季実施に関係なく、都度必要な時に面談を行った。(第3学年)	
中学生及びその保護者対象に「学校説明会」及び音楽類型体験入学を(年間計4回)開催し、本校の教育方針の説明や施設の見学を通して、本校の魅力をアピールしている。また、中学校に出向いての出張説明会にも積極的に参加していく。(総務部)	多くの中学生や保護者に参加してもらい、本校を知ってもらう良い機会となった。第2回からは、生徒主体で開催することができた。来年度も継続していきたい。また、校長による学校説明の動画も効果的であった。	運動部の公式戦と説明会の日程が重なり、学校で活動している姿を見ることができないことがあった。開催時期を検討し、ひとつでも多くの部活動を中学生や保護者に見てもらえるようにしたい。また、7月の説明会では暑さによる体調不良者が出たため、開催の時期や方法を改めて検討していきたい。	
ホームページの更新を頻繁に行い、本校を知ってもらうための情報発信に努める。(総務部)	ホームページの更新をこまめに行い、校内の様子や本校に関する最新の情報を掲載するなどして、本校を幅広く知ってもらうための情報発信ができた。また、写真をより多く掲載したり、学校説明会の動画を掲載したりすることができた。	更新頻度が少ない部活動がある。本校をより知ってもらうためにも、教員間で協力したい。	
生徒指導の充実を図るため、「生徒指導委員会」や「職員会議」において教師間の意思疎通を適切に行うなかで、現在の生徒指導の問題点や現状に合致した規定の改定の協議を進めている。(生徒指導部)	定例の指導委員会を月1度行い、情報共有を行った。また、職員会議等で周知することができた。今年度は、校則の見直しについて重点的に取り組み、改定を行った。	引き続き情報共有を行い、職員全体で生徒指導に取り組めるように努めていきたい。	
「保護者会」を開催し、おもに進路指導を中心に保護者との連携を図っている。(進路指導部)	3年生は1学期、1・2年生は2学期に実施できた。	卒業生の進路状況など、その都度正確な情報を知らせる。	
「学校保健委員会」を開催し、保護者や学校医も交え、家庭や地域との連携した学校保健活動を展開している。(保健部)	学校保健委員会を開催したいと考えていたが、校医との日程が合わず、紙上報告となる。	来年度は開催したい。	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 安全教育的取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育的取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		4	4
取組	成果	課題と改善策	
実習授業前に必ず集合し、服装や体調の確認を行い、安全に対する注意喚起に努めている。(ものづくり機械科)	実習授業前に必ず集合し、服装や体調の確認を行い、安全に対する注意喚起に努めた。実習中の機械音(騒音)の中でマスクを着けての説明が、生徒に伝わっているか分からない点があったため、ジェスチャーを取り入れ工夫した。	課題を達成したため課題無し。	
実習前は全体ミーティングを実施し、服装の確認と体調観察を行う。また、実習の安全意識向上を図る。(電気情報科)	実習前の全体ミーティングでは開始時間前に整列が完了し、落ち着いた状態で実施できた。	チャイムが鳴る前に生徒自らが主体的に整列できるようにすることが課題である。	
「AED」及び「普通救命救急法」の講習会、「避難訓練」などを実施し、教職員及び生徒の防災意識のさらなる向上を目指している。(総務部、保健部)	救命講習会を管理職・学年・消防署と実施方法を検討し、実施することになった。消防署に参加していただき避難訓練を実施した。今年は校内の防火シャッターを作動させて実施した。さらに、11月に地震・津波防災訓練、講演会を実施した。(総務部) 1年生を対象に救命講習会が開催できた。(保健部)	学年以外の教員の参加を増やすことや意識づけが課題である。防災訓練においては、いろいろな災害を想定して実施するように努めていく必要がある。(総務部) 救急救命の職員向けの研修も実施していきたい。(保健部)	
安全な学校づくりのために、学校施設の安全点検を各学期に行い、危険箇所の早期発見に努めている。(総務部)	今年度は、校内の施設・設備の危険箇所を随時、受け付けるようにし、気づいたことがあればいつでも受けられるようにした。	随時受付にしてから、危険箇所の報告が少なくなった。安全な学校づくりのために、危険箇所が無いが、教員間で普段から意識するようになりたい。	
校内外の数カ所において、生徒指導部の教員を中心に「自転車安全運転指導」を行っている。(生徒指導部)	校内外の数カ所において、自転車指導を行い、一定の成果を上げることができた。	引き続き来年度も行い、事故防止やルール遵守に努めていきたい。	

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		4	4
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実			
取組	成果	課題と改善策	
各種検定取得に取り組むことで、ビジネスに関する幅広い知識・技術を身に付ける。卒業後の進路決定に役立つよう、より高いレベルの検定資格の取得を目指す。(商業学科)	今年度も全商検定9冠取得者が1名出ており、ほかにも多くの生徒が多数1級取得することができた。この結果から大学への進学や就職時にも高い評価を得ている。	上級生による成果(進路実績)を下級生に知らせることで、検定取得へのさらなる意欲向上を目指す。	
①教育目標を検討し、複数の具体的な目標に細分化する。 ②全職員が共通認識をもち学校全体で目標の達成に取り組む体制をつくる。(教務部)	成績資料などを根拠に共通認識をもつ取り組みをおこなった。	学科の特性をふまえて包括的で幅が広くバランスのとれた教育目標を積極的に検討していく必要がある。	

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3.8	3.8
(1) 各学科の特色ある教育活動をはじめとした本校の強みをさらに高めながら、全体としてまとまりのある学校運営を目指す。 (2) 生徒指導・教育相談・進路指導体制をさらに充実させ、全教職員で協力しながら生徒の自己実現(人格の完成、進路目標実現等)のために、組織的に取り組む。			
取組	成果	課題と改善策	
①検定前に実施する補習時には、担当授業や学年の枠を越え、商業学科全ての教員がその指導に当たり、情報交換を行うことで、生徒の学習理解度等の情報共有を行う。 ②3年生課題研究では、商工会議所や、地元企業と提携し、地域の企業の経営課題改善に取り組む。3年間で身に付けた商業の知識技術を活用でき、地域にも貢献することができる。また、商業の学びに対する興味関心がより深くなり、自ら学ぶ態度の育成に繋がる。(商業学科)	①検定前に全ての教員が指導にあたることで、生徒の学習理解度も知ることができ、検定の合格率も上がっているように思う。 ②課題研究では、小学校へプログラミングの授業を教えに行ったり、地域の企業の経営課題に取り組むことができた。	①教員間の情報共有をより深め、生徒の学力向上、資格取得に向け効率よく指導できる形を継続して、模索する。 ②新カリキュラムにおける新たな教科との関連を考えつつ、継続的な学習や新たな取り組みが行えるよう、外部機関との情報交換を積極的に行う。	
各委員会、各教科等で学習指導や生徒指導のあり方について、必要に応じて、外部講師を招聘し、「研修会」を企画する。(教務部)	教務部主催の研修会を実施することができなかった。	スケジュールや内容について他の部の課題解決も含むような研修会の企画する方向で検討する必要がある。	
各委員会、各教科等で学習指導や生徒指導のあり方について、(必要であれば、外部講師を招聘し、)「研修会」を企画する。(生徒指導部)	生徒指導部としての研修会は実施できなかったが、いじめ対応等の研修を学校として行うことができた。	次年度に向けて計画を立て、研修会を計画したい。	
各委員会、各教科等で学習指導や生徒指導のあり方について、(必要であれば、外部講師を招聘し、)「研修会」を企画する。(保健部)	カウンセリングマインド研修を実施できた。校長からの説明によりほぼ全員が出席できた。	内容をより良くしていきたい。	
人権教育を実りのあるものにするため、教職員向けの人権教育研修会を実施する。(人権教育部)	人権教育部としては未開催である。PTA主催で人権教育講習会が行われた。	人権教育研修会を人権教育部主催で実施できるように企画していきたい。	

学校関係者評価

※ 評価Ⅲの基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
1:取組が不十分である

学校関係者意見等	評価Ⅲ
<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題と改善策にもあるように、読書習慣の育成につながる仕掛けを多くの教科が協力して取り組んでほしい。 ・長期休業中・放課後補習については、教員の人数・持ち時間数・教室の確保等課題はあると思いますが、継続して頂きたい。読書についての啓発・促進活動を継続し、図書館利用者、貸出・貸出冊数の増加を図ってください。 ・図書館・読書の重要性などを理解してもらうことで、生徒の気持ちが少しは変わるような気がします。読書感想文も同様で、書いてください、本を読みなさいだけでは生徒は動かないように思います。マラソン大会はぜひ継続してください。 ・1年生全員に図書館見学を実施し、読書習慣の育成のつながるような興味を持たせることや、スタンプカードに取り組ませる等の努力をしていることは素晴らしいことではあるが、貸出者数・貸出数は例年並みであったということで、図書利用の必然性を意識しての更なる取り組みに期待します。また3学期に実施する「マラソン大会」では、生徒一人ひとりが自分に合った目標設定を行い、目標に向けて努力させていることは、昨今の体力不足の改善には効果的な取組と評価する。 	3.5
<p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップや資格検定に積極的に取り組んでおり、自己実現の意識が高い。 ・基本的な生活習慣確立のための取組等を促進し、キャリア教育を充実させ、生徒の心身共に健全な育成・社会的自立に必要な能力の育成等を図ってください。生徒の進路選択については、専門3学科とも、資格取得を通しての取組でかなりの成果があがっていることは素晴らしいと思います。また普通科においては、さらなる進学実績向上を目指してください。今後とも、「生徒が自ら考え、自ら行い、自ら責任を持って」、自主的・主体的に進路選択ができるよう適切なサポートをお願いします。芸術鑑賞会については、現状の方法での継続をお願いします。遅刻者に対する「早朝登校指導」の継続をお願いします。いじめアンケート等により、今後とも、いじめの早期発見に努め、いじめ対応チーム会議を定期的・臨時的に行い、情報共有や対応策の協議等を効果的に行ってください。 ・これからは「資格取得を通して自信と誇りを高め意欲ある学習」に努めてください。1つでも資格を取得することで自信がつくと考えますし気持ちも変わると考えます。 ・阪神間の企業の協力を得て、インターンシップを行い、自分の将来をじっくりと考える意識を高めさせている。また、資格取得を通して自信と誇りを高めるとして、国家試験にも出来るだけ挑戦される機会を作り、更に様々な国家資格を取得させていることは素晴らしい。文化教養としてミュージカルを鑑賞させる等の活動も生徒にとって貴重な体験と考える。 	4
<p>3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭・地域・学校の連携を深めるのに十分な取り組みがされている。 ・各学年による三者面談・進路指導部主催による保護者会・学校保健委員会等を通して家庭との連携を深めてください。さらに生徒指導の充実を図るため、「生徒指導委員会」や「職員会議」において教師間の意思疎通を適切に図り、情報共有を行い、職員全体で生徒指導に取り組めるよう努めて頂きたい。また学校説明会・オープンハイスクール・音楽類型体験入学あるいはホームページにおける情報発信等を通してのPR活動を継続し、家庭との連携を深め、家庭・地域・学校から信頼され、活力に満ちた学校づくりを目指してください。 ・三者面談は年に2回、1学期と3学期に実施いただくのはどうか。または2回のうち1回は二者面談(保護者と先生)があっても良いかと思えます。 ・中学生及びその保護者対象に「学校説明会」及び音楽類型体験入学を(年間計4回)開催し、本校の教育を知ってもらう。また校長による学校説明の動画も効果的は、学校を知ってもらう最適な方法であると思えます。さらに、「ひかりのガーデン」称した地域の方々にも見学できるライトアップイベントの開催は、これからの地域連携の柱となりうる素晴らしい企画であり、今後に期待ができる。 	4
<p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災意識の向上や安心安全な学校生活を送るための取り組みがされている。 ・安全教育・防災教育推進の取組を継続して頂きたい。「自転車安全運転指導」の継続をお願いします。「AED」及び「普通救命救急法」の講習会、「避難訓練」等の継続実施をお願いします。学校施設・設備の安全点検は非常に重要だと思えます。今後とも危険箇所の早期発見・改善等に努めてください。 ・AED及び救命救急講習会、避難訓練、自転車安全運転指導などについては引き続き実施(できれば年に数回)し、救命救急時の対応や防災意識の向上をお願いします。 ・「AED」及び「普通救命救急法」の講習会、「避難訓練」などを実施し、教職員及び生徒の防災の意識づけを消防署に参加のもと防火シャッターまで作動させての訓練は、生徒にイメージを付けやすい、取組である。 	4
<p>■教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上と社会貢献ができる生徒を育てる取り組みが行われている。学校全体として広がるよう期待します。 ・商業学科における各種検定取得の取組の中で、高レベル検定取得の成果として、今年度も全商検定9冠(全商検定全科目1級合格)は顕著な成果だと思えます。生徒にとって検定取得の更なる意欲向上に繋がっていくと思えます。学科の特性を踏まえた包括的で幅広いバランスの取れた教育目標を積極的に検討し、全職員が共通認識を持ち、学校全体で教育目標の達成に取り組む体制をつくってください。 ・生徒が常に相談しやすい環境を作ってください。創意工夫しながら生徒の希望進路実現を目指してください。 ・各種検定取得に取り組む、今年度も全商検定9冠取得者が1名出ており、ほかにも多くの生徒が多数1級取得するなどしていることから、今後より高い目標を設定し挑んで頂きたい。 	3.8

<p>■研究テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科での研修が行われており、組織的な取り組みがうかがえる。教員間でのコミュニケーションを図る企画があれば良いと思います。 ・各種委員会・各教科等での学習指導・生徒指導・人権教育のあり方について、現状や校内のニーズに即した教職員向けの研修会等を継続的に実施し、今後とも教職員の資質向上に努めてください。商業学科の取組として、検定補習・課題研究(商工会議所の企画参加・地元企業との提携・小学校への出前授業等)等でかなり成果があがっているようです。今後とも教員間の情報共有をより深め、生徒の学力向上、資格取得に向けて努力してください。また外部機関との情報交換を積極的に行い、継続的な学習や新たな取組を行って頂きたい。 ・最近は無数多様な人権問題が発生しておりメンタル不調者が増えています。生徒はもちろん教職員向け研修も引き続きお願いします。 ・小学校へプログラミングの授業を教えに行ったり、地域の企業の経営課題に取り組んでおり、人に教えることに対して学ぶ重要性、また学んだことが社会に通じるかの貴重な体験ができる取組をしている。 	3.8
<p>■</p>	
<p>評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)</p>	<p>評価Ⅳ</p>
<p>アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か</p>	<p>A</p>
<p>自己評価の結果の内容は適切か</p>	<p>A</p>
<p>自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か</p>	<p>A</p>